

よろず支援拠点だより <79>

事業計画作りが事業を行う第一歩

わかやま新報の読者の皆さま、こんにちは！

和歌山県よろず支援拠点コーディネーターの野際です。今回は、相談業務の中で重要と考えています事業計画作りについて話をします。「どんぶり勘定・成り行き経営」という言葉を聞いたことがありますか？ これらの言葉は、経営セミナーやビジネス本のタイトルで目にすることがあります。どんぶり勘定とは、自社の利益の源泉（飯のタネ）を理解していないこと。成り行き経営とは、計画や目標なしで商売を行っていることだと

言われます。

事業計画作りとは、頭の中にあることを文書にして見える化（可視化）すること。会社方針などが明確になり、従業員や家族と「未来」の目標を共有することが出来ます。また、補助金申請や資金調達の際にも事業計画が必要です。計画は、大きく分けて、①事業内容②目標設定③取組からなります。事業内容とは、事業の基本コンセプト（誰のどのような課題をどうやって解決するのか）を明確にすること。目標設定は、事業を実施することによる成果を売

上高や営業利益という定量的数字で示すこと。取組は、目標を達成するための具体的活動を、自社の強みや経営資源（ヒト・モノ・カネ）を把握して立てることです。商品が売れている理由・顧客に選ばれている理由、それが強みです。売れている理由を明確にする、過去の受注実績の傾向を見る、お客さまや取引先にアンケートなどを行うことで、身近なことや当たり前にやっていることから強みを探し「見える化」させて欲しいです。

自社の現状把握を行い、解決すべき課題に優先順位をつけ（課題形成）、課題解決に向けた取組を考えることが事業計画作りとなり、どんぶり勘定・成り行き経営からの脱却につながると考えます。

事業計画作りが事業の第一歩！の視点から、皆さまのご支援を継続して行いたいと思います。

和歌山県よろず支援拠点
和歌山市本町二丁目1番地
フォルテワジマ6階
URL <http://yorozu.yarukiouendan.or.jp/>
TEL 073・433・3100

